

# 道徳科学習指導案

指導者 T1 安平 亮介  
T2 小原 智穂  
T3 伊藤 なよみ

- 1 日 時 令和2年9月8日(火) 第5校時
- 2 学 年 中学校第1学年(男子9名, 女子10名)
- 3 場 所 1学年教室
- 4 主題名 集団生活での役割と責任の自覚 【内容項目C よりよい学校生活・集団生活の充実】
- 5 ねらい むかで競走の練習に意欲をもてないリーダーの拓也が、運動の苦手な一宏を交え3人で練習をする仲間を見てその場から動けなくなった心情を考えることを通して、任された役割や責任の大切さに気づき、集団生活の中で自分がおかれた役割に責任をもって行動し、集団生活の充実をはかろうとする道徳的心情を培う。
- 6 教材名 「むかで競走」 【あすを生きる 日本文教 1年】

## 7 主題設定の理由

### ○主題観・価値観

本主題は、【学習指導要領解説 特別の教科 道徳 中学校】編によるものである。学校は、公的な集団生活である点で私的な集団生活の場である家庭とは大きく異なる。その中で、生徒は、他の人間と関係をもち集団を作り上げ、様々な集団や社会の一員として生活している。それぞれの目標や立場が異なる集団に所属しながら、共同して日々の生活を営んでいる。人が、それぞれの集団の一員としてよりよく生きていくためには、自分の属する集団の意義や目指す目的を十分に理解し、自分の役割と責任を果たし、集団生活の充実に努めることが大切である。

集団生活での役割の責任について、「責任」とは、英語では3つの異なる責任に明確に分けられる。Responsibility(遂行責任) Accountability(説明責任) Liability(賠償責任)である。Responsibility(遂行責任)とは、最後までやり遂げることであり、Accountability(説明責任)は相手を納得させること、Liability(賠償責任)は、何かを差し出すことである。この3つの責任をもつことは、自分が任されたこと、始めたことを最後まで行うだけでなく、その行動は周囲が納得できるものであることも大切であり、責任を果たすために自分ができることは行わなければいけないと考える。また、責任を果たすためには、集団での規則を守り、互いに協力し励まし合う関係づくりをすることも重要であり、集団の中で自分の役割や責任を自覚することは、集団生活が充実するだけにとどまらず、自己の資質・能力を高め自分自身の向上につながることになる。

中学校1年生の段階では、学校生活の環境の変化により、教師や学校の人々への敬愛の気持ちや学校に対する愛校心、集団への帰属意識も十分とはいえない傾向がある。この段階では、学校のよさや校風等を取り上げ、学級や学校の一員であることを促す必要がある。また、自分が所属する集団にのみ関心を寄せ、自分達の利益のみを追求し、自分との関わりが薄いと思われる集団や成員に対して無関心になってはいないか省みることも必要である。利己的で狭い仲間意識を克服し、協力し合って、集団生活の向上に努める態度を育てることの重要性から本主題を設定した。

### ○生徒観

省略

#### ○教材観・指導観

前述の生徒実態を踏まえ、本学習では次のように指導を行いたい。

本教材は、中学校3年生で迎えた体育祭での伝統競技「むかで競走」への思いと共にクラスの団結なしでは成立しない競技に対してリーダーとしての責任を担う主人公が中心に描かれている教材である。

また、競技の勝敗に固執するメンバーによる苦手な生徒への思いや、その生徒を支えようとする生徒の姿からメンバーシップについても考えを深められる教材でもある。

指導にあたり、導入では、「吉き舎り道徳学習プログラム」の関連を生かして、学級目標である「切磋琢磨」という学級テーマへの思いとその目標達成のためのステップアップ目標について振り返り、価値への動機づけをさせたい。

展開前半では、リーダーでありながら運動の苦手な一宏に対する他のメンバーの思いに同調してしまう拓也の心情を共感的に捉えさせたい。さらにリーダーとしてのやる気を失い練習に遅刻したことを責められ、反対に仲間を非難する拓也が、リーダーとしての役割に対してどのような気持ちになっているのかを考えさせたい。

中心発問では、運動の苦手な一宏を交え一生懸命練習をする仲間の姿を見た拓也が、その場を動けなくなった心情を考えさせ、リーダーとしての自覚や責任について考えさせたい。中心発問では自分の考えと向き合わせるために道徳ノートに自分の考えを書かせ、発言させる。発言は分類して板書することで、生徒の思考を整理する補助資料とする。

分類した発言の中から、生徒自身から問いを見つけ、グループで価値を深めていきたい。グループで討議をしたことからさらに問いを見つけ、主体的に話し合いを進めさせていきたい。話し合い活動では TT を生かし、グループでの話し合いに対して深める問いかけを効果的に行っていきたい。価値を深める段階で、拓也の心情から価値の一般化をさせていきたい。

終末では、「吉き舎り道徳学習プログラム」の関連として学習の振り返りとともに、次時への新たな問いかけをしていきたい。

## 8 指導のポイント

| ステップ | 学習展開     | ステップの視点                            | 本時の工夫  |
|------|----------|------------------------------------|--|
| 1    | 導入       | 【チャレンジ】<br>○課題把握<br>○動機づけ(価値または教材) | ○「吉き舎り道徳学習プログラム」の流れを生かした価値への動機づけ。                    |
| 2    | 展開(中心発問) | 【考えをあきらかにする】<br>○考えの根拠の明確化         | ○道徳ノートへの記述   |
| 3    |          | 【さらに問いを見つける】<br>○自他の意見への問いの連鎖      | ○2段階による生徒の考えから次の問い(課題)の発見                            |
| 4    |          | 【未来に広げる】<br>○自己との関りを深める工夫          | ○日常生活へ広げる言葉がけ  |
| 5    | 終末       | 【学習を振り返る】<br>○価値の一般化, 自らの生き方への意欲付け | ○学習の振り返りから評価する。<br>○「吉き舎り道徳学習プログラム」の流れを生かした次時への意欲付け。 |

**吉舎(きさ)と未来** (考えをあきらかにする, さらに問い(と)を見つける, 未来に広げる)

## 9 よりよい学校生活・集団生活の充実における発達の段階

|     | 目標   | キーワード  |
|-----|--|--|
| 低学年 | 先生を敬愛し, 学校の人々に親しんで, 学級や学校の生活を楽しむこと。  | 先生を敬愛<br>学級や学校を楽しむ                                   |
| 中学年 | 先生や学校の人々を敬愛し, みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。  | 先生や学校の人々を敬愛<br>協力し合う                                 |
| 高学年 | 先生や学校の人々を敬愛し, みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに, 様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実につとめること。                    | 様々な集団の中での役割の自覚<br>集団生活の充実                            |
| 中学校 | 教師や学校の人々を敬愛し, 学級や学校の一員としての自覚をもち, 協力してよりよい校風をつくるとともに, 様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実につとめること。 | 学級や学校の一員としての自覚<br>よりよい校風<br>集団の意義, 集団の中での自分の役割と責任の自覚 |

10 『吉き舎り道徳学習プログラム』

|            |  |                             |
|------------|--|-----------------------------|
| 吉き舎りプログラム名 | 「友達との絆」                                    |                             |
| めざす資質・能力   | 共感力・コミュニケーション能力・表現力                        |                             |
| めざす児童・生徒像  | ・互いに励まし合い、高め合う生徒<br>・友情の尊さを理解し、信頼し合う生徒     | A…自主, 自律, 自由と責任<br>B…友情, 信頼 |
| ねらい        | 友達の立場に立ち、互いを尊重し合いながら高め合う絆を結ぼうとする道徳的実践意欲の育成 | C…よりよい学校生活, 集団生活の充実         |

友達との絆

| 過程                          | 生徒の意識の流れ  | 道徳科   | 教科・領域・行事  |
|-----------------------------|---|---|---|
| <p>発見<br/>気づき</p> <p>思考</p> | <p>○ クラス目標<br/>「切磋琢磨」は、共に磨き合いながら成長すること。<br/>【問い】<br/>自分たちのクラスの目標ってどうすれば到達できるのだろう。</p> <p>○ まず、自分自身が自律していくことが大切なんだ。</p> <p>○ 先輩として小学校6年生に、中学校の良さや部活動の大切さを伝えたい。<br/>【問い】<br/>クラスのためにどんなことができるのだろう。</p> <p>○ リーダーシップとメンバーシップを大切にしたいな。<br/>【問い】<br/>メンバーがつながるために大切な思いは何だろう。</p> | <p>道徳科<br/>教材名「二人の約束」<br/>A…自主, 自律, 自由と責任<br/>【ねらい】<br/>自主的に考え, 判断し, 誠実に実行してその結果に責任をもとうとする道徳的心情を培う。</p> <p>道徳科<br/>教材名「むかで 競走」(本時)<br/>C よりよい学校生活, 集団生活の充実<br/>【ねらい】<br/>集団生活の中で自分がおかれた役割に責任をもって行動し, 集団生活の充実をはかろうとする道徳的心情を培う。</p> <p>道徳科<br/>教材名「近くにいた 友」<br/>B…友情, 信頼<br/>【ねらい】<br/>友達と信頼し合い, 互いに励まし合い, 高め合いながら人間関係を深めていこうとする道徳的心情を養う。</p> | <p>特別活動<br/>◎「ステップアップ2学期」<br/>学級目標に迫るためのステップアップ課題の設定を考える。</p> <p>特別活動<br/>◎「町内小学校6年生中学校体験入学・部活動体験」<br/>小学校6年生に中学校生活で大切にしなければいけないことや, 部活動での役割について体験活動を通して伝える。</p> <p>音楽科<br/>◎「詩の内容と曲想との関りを感じ取ろう」<br/>「魔王」を学び, 作曲家シューベルトが人のつながりを大切にし, 友との深い関わりから, 人の心を打つ数多くの名曲を生み出したことを知る。</p> |
| 実践意欲                        | <p>友達と信頼しあえる絆を結ぶために、自分自身が自律した考えをもつことが大切なんだ。友との絆が集団生活の向上につながっていく。</p>  |   |   |

1 1 準備物 教科書 道徳ノート、発問短冊

1 2 学習展開

|    | 学習活動  | 主な発問と予想される児童生徒の心の動き<br>(◎中心発問)   | T<br>1                   | T<br>2                           | T<br>3                                 | 指導上の留意点<br>(☆評価の観点)  |
|----|---|--|--------------------------|----------------------------------|--|--|
| 導入 | 1 学級目標を振り返る   | ○ 「切磋琢磨」と決めた思いと達成のためのステップアップ課題を振り返りましょう。   | 発問<br>交流                 | 観察                               | 観察                                     | ○ 吉き舎り道徳学習プログラムとの関連を生かし、価値への動機付けとさせる。  |
|    | 2 教材「むかで競走」を読んで話し合う。<br>(1) 「一宏がいなければ…」という言葉に苦笑いをする拓也の気持ちを考える。<br>(2) 練習に遅刻し、剛に責められた拓也の気持ちを考える。<br>(3) 練習をする3人を見る拓也の心情を考える。<br><b>【考えをあきらかにする】</b><br><b>【さらに問いをもつ】</b><br><br>(4) チームの意識が変わった理由を考える。 | ○ 「一宏がいなければ…」という言葉聞き、拓也はどのようにして苦笑いをしたのだろう。<br>・みんな優勝したいのだから仕方ない。<br>・本当だなと思ったから。<br><br>○ 遅刻を責められた拓也は、むかで競走に対してどんな思いになっているのだろう。<br>・自分のせいにばかりするなよ。<br>・リーダーなんかするんじゃない。<br>・みんな協力してくれなくてくやしい。<br>◎ 拓也は、どうして一生懸命練習する3人を見て、しばらくその場を動けなくなったのだろう。<br><b>自己反省</b><br>・リーダーなのに練習を手伝ってなかった。<br>・一宏のせいで勝てないと一緒に頑張ろうとしてなかった。<br>・人のせいにばかりしてきた。<br><b>尊敬</b><br>・Bチームは、一宏と一緒に頑張っている。<br>・一宏のことを思っている。<br>Q1 リーダーなのに…という思いはなぜ？<br>・みんなをまとめる役割だったのに…。<br>・誰も見捨てず一緒に頑張らなくてはいけないのに…。<br>Q2 チームの意識が優勝から完走に変わったのは、なぜか？<br>・リーダーの意識がチームをかえた。<br>・メンバーの意識がチームとしての思いに変わったから。<br>・一人を大切にすることがチームであることに気付いたから。 | 発問<br><br>発問<br><br>実態把握 | 板書<br><br>板書<br><br>板書<br><br>板書 | 観察<br><br>実態把握<br><br>実態把握<br><br>実態把握 | ○ T3の範読に対応して黒板に必要事項を提示。<br><br>○ 拓也がリーダーとして「むかで競走」に対しての思いを考えさせる。<br><br>○ リーダーとしての思いの変化に着目させる。<br><br>○ 道徳ノートに記述させ、自分の考えをもたせる。<br>○ 生徒の発言を分類して板書し、その中から次の課題を見つけさせる。<br><br>○ リーダーとしての発言に課題をもたせ、グループで討議させ、次の課題をもたせる。<br>○ リーダーとしての意識の変化がメンバーとしての意識の変化にどのように関わるかをグループで考えさせる。<br><br>○ 学んだ価値について、自分の生活に関連させ広げさせる。 |
| 終末 | 3 自分の生活を振り返る。(内省化)<br><b>【未来に広げる】</b><br>(1) 自分の生活を振り返り、未来へ広げる考えを見つめる。  | ○ クラス目標に対するステップアップ課題を達成していくために大切にしていきたい思いを考えてみましょう。  | 発問<br><br>実態把握           | 実態把握                             | 実態把握                                   |  |
|    | 4 振り返りをする。<br><br>5 新たな問いかけ   | ○ 今日学んだことを振り返りましょう。<br><br>○ 集団での役割や責任を支えているのは、どんなことだろう。   | 発問<br><br>実態把握           | 実態把握                             | 実態把握                                   | ○ 学びを振り返らせ、道徳ノートに記述させる。<br>☆ 集団生活の中で自分がおかれた役割に責任をもって行動し、集団生活の充実をはかろうとする道徳的心情をもっている。(発言、ノート)<br>○ 「吉き舎り道徳学習プログラム」との関連から、発展した問いをもたせる。  |

